男女共同参画

ハーモニー広場

2011 vol.58

男女共同参画社会を目指して

それぞれのチャレンジストーリー

男女共同参画

「チャレンジストーリー」では、個人・団体・企業の皆さんのチャレンジをご紹介します。起業、地域活動、働きやすい環境づくりなどさまざまな分野で広がる男女共同参画社会。それぞれの活動を参考に、皆さんも新しいチャレンジを始めてみてください。

個人　企業　団体

Challenge! Story ①

個人の取り組み

被災地で救援活動を行った女性自衛官

陸上自衛隊古河駐屯地第1施設団第301ダンプ車両中隊
陸士長　青島 生実[あおしまいくみ]さん

入隊4年目、これからいろいろなことにチャレンジしていきます。
青島 生実さん

かつてない大災害となった東日本大震災、そこでは多くの自衛隊の皆さんが救援活動に取り組みました。古河市にある陸上自衛隊古河駐屯地の部隊に所属する青島生実さんもその一人です。青島さんの第301ダンプ車両中隊が出動したのは、4月11日。茨城県も被災し、給水車で給水活動を行っていたため、最後まで給水が必要だった神栖市での活動を終えてから、宮城県石巻市に向かいました。古河駐屯地から出動した隊員は約100名、そのうち女性は5名、ダンプ車両中隊は7トンダンプ24台の編成でした。

当時の被災地の様子を青島さんにうかがうと、「石巻は津波の被害が甚大で、到着して目の前に広がった風景は言葉にならない状況でした。先発の他の隊が道路を通行できるようにしていましたが、道路以外はまだまだ一面が瓦礫で埋っていました」と振り返ります。

▲7トンダンプを運転する青島さん。

青島さんたちダンプ車両中隊は、重機で積み込まれた瓦礫を集積所まで運ぶ作業を、1日10～15往復、4週間行いました。「実際に被災地に派遣されるのは始めてでしたが、無事に活動を終えることができました。テレビのニュースなどで被災地の皆さんが『自衛隊さんありがとう』と言ってくれているのを見ると、ああ良かったなと思います。うれしいですね」と支援活動で感じたことを話されました。

青島さんが自衛官になったのは、今から3年前の23歳のとき。それまでは介護福祉士として働いていました。

「自衛隊の活動を知り、自分もなりたいと思ったのです。人のためになる仕事がしたいというのが、介護と共通しているかも。現在は、やりがいがあり充実しています」ということでした。

訓練は男女とも同じ訓練で、男性女性の差はありません。「時々辛いけど、それは私だけじゃなくみんな一緒ですから。尊敬できる先輩も多く、女性の先輩たちは産休・育休を活用して仕事を続けています。私も目標をもって進んでいきたいです」と青島さん。

現在の目標は、「今年3月に大型免許を取ったばかりなので、運転技術を向上させたい」ということでした。青島さんのチャレンジは、これからも続きます。

▲宮城県石巻市での救援活動。

Challenge! Story ②

団体の取り組み

古民家の交流拠点「一日カフェゆらぎ」を運営

サークル結（ゆい）

大子町の文化福祉会館「まいん」のすぐ近くに、「一日カフェゆらぎ」はあります。駅前通り商店街の友達6人で結成する「サークル結」が、「まいん」のオープンと同時に開設しました。代表の田中さよ子さんは、「観光で来られた方に、コーヒーを飲ませてくれる店はないかと度々聞かれたこともあり、『まいん』がオープンしたことを機会に、イベントなどに訪れる方の休憩所や地元の方々の交流の場としてカフェを始めました」とオープンのいきさつを語ります。

カフェは毎週土曜日と、「まいん」などで大きなイベントがある日に開けています。喫茶コーナー以外にも、地元の商店街の商品や、大子清流高校の生徒たちが育てた野菜の販売もしています。観光で来た方が立ち寄り、持参したお弁当を食べていかれることもあるそうです。

カフェに利用しているのは、メンバーの小祝睦子さんが所有する築100年以上は経つという古民家です。「材木屋さんだった建物で昔のままの作りですが、材料は良いものを使っているので震災でも被害はありませんでした」と小祝さん。

震災前には大子町を散策する方も多く、カフェにも一日30人、イベント時には数百人の方々が立ち寄ってくれたそうですが、現在は町全体の観光客が減少しているとのこと。しかし田中さんは「負けずに、頑張っていきます。地元の皆さんの力になりたいですから」と言います。

左上から太田良子さん、代表の田中さよ子さん、
左下から小祝睦子さん、斉藤恵美子さん、山田良子さん、
（櫻山実保子さんは、都合により当日欠席でした。）

震災後には、地元の方が多く訪れたそうです。「自分の家の被害の様子とか、怖かったねとここで話をすることで、心が落ち着いたと言ってくれました。そういう場としても、地元のお役に立ったのかなと思います」と小祝さん。

「サークル結」では、カフェ以外にも様々なボランティア活動を目的としています。震災後には赤坂サカスで開催された復興支援イベントの「絆プロジェクト」にも参加し、大子町の地場商品の販売を行ったそうです。

また、「サークル結」は平成23年度の県の商店街活性化コンペで最優秀賞に選ばれています。今後もカフェを拠点に、高校生とともに取り組む地域の特産品を使ったメニューの開発や、読み聞かせ会やコンサートの開催、町のスイーツマップの作成などを、商店街との連携を図りながら進めていくということです。

▼一日カフェゆらぎの外観

「お客様のありがとうの言葉が聞けることが喜びです。『できるときにできる人が』ということがモットーですから、当番制などもありません。これからも自分たちのペースで無理なく、平均年齢59歳の6人で頑張っていきます」と話す田中さんでした。「サークル結」の当面の目標は「震災後の大子町を元気にすること」。身の丈に合った活動を続けていきたいとのことです。

▲訪れたお客さんを、無料のお茶とお菓子でおもてなし。

Challenge! Story ③

企業の取り組み

事業所内臨時託児所「さつきゲン木くらぶ」を開設

（株）日立製作所　水戸事業所

事業所内臨時託児所は社員に好評です

（株）日立製作所都市開発システム社総務本部総務部長
今泉 良さん

東日本大震災の影響で、電力不足が深刻となっている今年の夏。国内企業においては、これまでにない節電対策を推進しています。（株）日立製作所もその一つで、7月から9月まで、東京電力（株）・東北電力（株）の電力供給区域内において、休日輪番や夏期休暇の分散を実施しています。

それに伴い、育児・介護中の社員を支援するための「育児・介護に関する施設・サービスの費用補助」「事業所内臨時託児所の設置」「在宅勤務フレックスタイム制勤務制度や育児・介護休職制度の活用促進」を行っています。

土曜日・日曜日が就業日となった、ひたちなか市にある日立製作所水戸事業所にも、事業所内臨時託児所が開設されました。社員の福利厚生施設を活用して7月から3カ月間限定でオープンした事業所内臨時託児所は「さつきゲン木くらぶ」。6カ月から9歳までの子どもたち30名ほどを受け入れています。

運営は労働組合が主体となり、運営費はすべて会社側が負担しています。保育については専門業者に委託し、1日10時間程度で開設。社員の皆さんに好評で、定員の10倍ほどの希望者が殺到したそうです。両親ともに仕事を持っており、近くに子どもを預けられる実家などがない方を優先し、それ以外の方については民間の保育所や市の運営する子育て支援施設等での対応をお願いしたということです。「社員に不便をかけることがとても心配でしたが、臨時託児所がとても好評で助かりました。」と総務部長の今泉良さん。

▲家庭的な雰囲気が特徴です。

4歳と2歳のお子さんを臨時託児所に預けている、七瀧悠子さんは、「子どもたちは、臨時託児所に来るのがとても楽しそうです。スタッフが多いので、細かくケアしてもらえ、しっかり遊んでもらえるのがいいようです。石鹸をつくったり、外に昆虫を探しに行ったりと、盛り沢山のプログラムが用意され、しかも家庭的な雰囲気のなかで預かってもらっています」と話していました。

七瀧悠子さん
子どもたちは楽しそうで、私も安心して仕事ができます。

施設内では、スタッフが、子どもの年齢に応じて、きめ細やかな対応を行っています。「スタッフは保育士の資格を持つ方や、子育て経験者です。私も5人の子どもを持つ親ですから、保護者の気持ちがわかるので、その立場にたって運営しています」と、臨時託児所を運営する労働組合の責任者である古賀栄次さん。

日立製作所は、男女共に働きやすい環境づくりに力を入れている企業です。今回の休日輪番に関しても、企業として細やかな支援策を実施し、社員の皆さんをサポートしていることが、子どもたちの明るく元気な笑顔からもうかがえました。

▼元気いっぱいに楽しい時間を過ごす子どもたち。

第58号　2011年8月31日発行
発行／茨城県知事公室女性青少年課 〒310-8555 水戸市笠原町978-6 http://www.pref.ibaraki.jp/bukyoku/bugai/josei/　制作／凸版印刷株式会社